

# ひがしひろしま 郷土史研究会ニュース

No.616

2025年12月

## 11月例会報告

天高く晴れ渡った晩秋の11月22日、2ヶ月ぶりに「11月例会」が市民協働センターで開かれ28人が参加した。冒頭、赤木会長が「被爆80年」という歴史的な節目の年に初めて新市域・安芸津町で開催した第39回「歩く会」、「戦争と平和～被爆80年をへて」と銘打った第53回「郷土史展」。これらの成果・教訓を下半期の活動に引き継ごうと挨拶。

続いて、広島大学大学院人間社会科学研究科准教授の河本尚枝先生から「満州移民の歴史と記憶～歴史の『伝承』考」と題して講演いただいた。ハワイやブラジルなどへの移民と違い、世界恐慌に続く昭和恐慌に端を発し、Puppet country, Manchuria (傀儡満州国)と呼ばれた満州国建国に呼応して広島県から11,172人(全国約32万人)が送られた国策移民であったこと。1945年9月9日のソ連参戦により軍民24万5,000人が犠牲になった事実。帰国できなかった移民のその後、国交回復後に帰国した帰還者の置かれた状況など、殆ど知られていない歴史的事実だ。

国策として進められた満州移民の方々が辿った筆舌に尽くせない体験。奪われた尊厳と尊い命。語られることのなかった歴史(置き去られた歴史)に、戦後80年経て触れることができたことに感謝。「賢者は歴史に学ぶ」との先生のまとめを心に刻み、「過去に目を閉ざす者は、結局のところ現在にも盲目となる」(ヴァイツェッカー)の言葉を噛み締めた。

「戦後80年」、戦争は終わっていない。

## 12月例会及び忘年会のお知らせ

日時 12月19日(金) 10:30～  
場所 憩いの料亭 白竜湖  
(ホテルヴァンコーネル3階)  
発表 昭和を生きた父 赤木達男氏  
忘年会 12月15日まで申し込み可能  
参加費 3000円 ※例会のみ参加の方は不要  
※忘年会への参加は要事前申し込み  
申込先 大森さん 090-9462-9861

## 臨地例会(三原市本郷町)報告(後編)

大森美寿枝

\*佛通寺多宝塔、禅堂等の寄進者

山口玄洞氏の略歴

文久3年(1863)～昭和12年(1937)

尾道市出身の実業家、帝国議會議員。

大阪で洋反物モスリンの商売で財を成し、貴族議員を歴任するなど政財界で活躍をする。仏教信者で各分野に多くの寄付を行なっている。出身地の尾道には上水道整備や学校設立基金等多くの寄進をされており、記念碑が各所に建てられている。観光名所文学のこみちには座右の銘が刻まれた文学碑も作られている。

### ■【米山寺】(小早川家菩提寺)

沼田川に架かる小原大橋を渡り小原工業団地の中を抜け山を越えると、小早川家菩提寺の米山寺はひっそり山際に建っている。

まず全員が本堂へ案内され、米山寺の歴史などを住職さんから説明していただいた。

なお、本堂の入口近くに相撲グッズが並べあり不思議な取り合わせだと思っていると、戦国武将毛利元就の「三矢の訓」で有名な3人の息子達の名がついている若隆元・若元春・若隆景の力士で、若隆景は小早川隆景の墓が米山寺にあることから必勝祈願の依頼があり墓参にも来られて、以後交流をされているそうである。福島県出身の「大波3兄弟」の今後の活躍を見守りたいと思う。

その後、宝物殿、収蔵庫・墓所の案内をしていただく。

宝物殿の中に全員が入り拝観することは難しいので2班に分かれて、住職さんと、若住職さんと対応して下さることになる。

### ◇米山寺の歴史

宗派：曹洞宗 山号：東廬山(とうろざん)

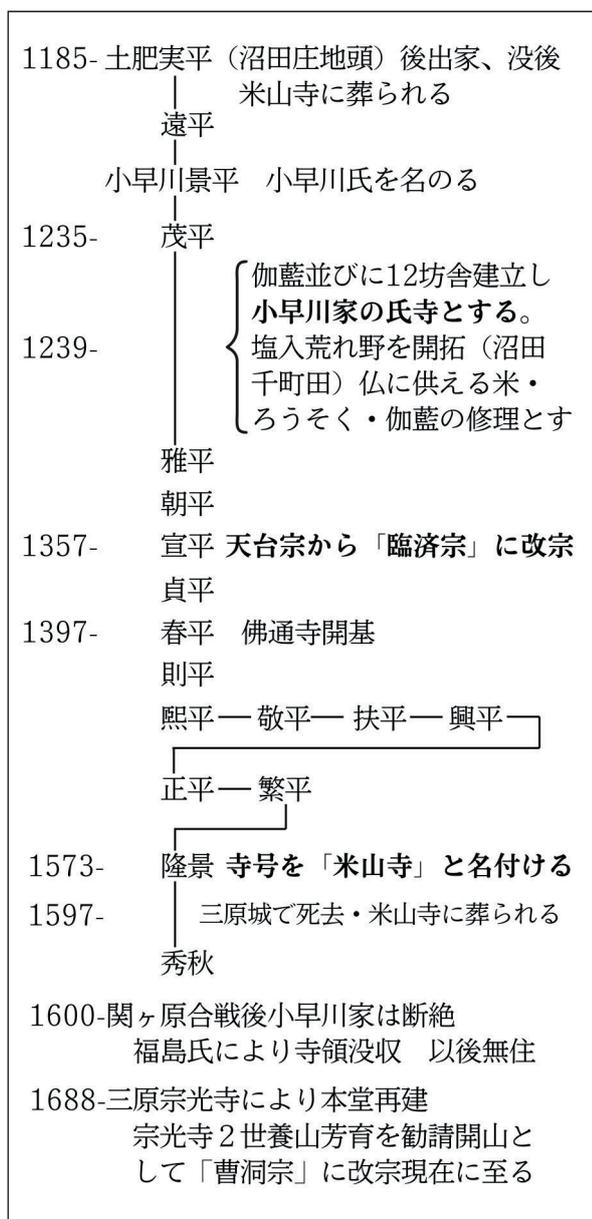
本尊：阿弥陀如来

創建：仁平3年(1153)

開基：誓願禪師

米山寺は「天台宗」として創建され、当初は「巨真山寺(こまやまじ)」と称し、これがなまって「こめやまじ」と転じ、さらに「米山」の字をあて、天正の初め(1573)、小早川隆景により寺号を現在の「米山寺(べいさんじ)」と名付ける。

## 【小早川家と米山寺の関係図】



\*平成30年（2018）7月の豪雨災害で墓所が倒壊流失する。

令和3年（2021）墓所復旧完成

米山寺の多くの文化財が収められている宝物殿、収蔵庫を特別に開けて説明をしていただき、その後、小早川氏歴代の墓所に住職さんの案内でお参りする。

## 『米山寺の文化財』

## ◆ 絹本著色小早川隆景公寿像

明治43年（1910）国指定重要文化財

扇の一種である中啓を手にして、衣冠束帯の坐像、朝鮮の役から凱旋した翌年の像で文武に秀で、禅を修学した堂々とした武将を現している。像の上の讚文は文禄3年（1594）に京都大徳寺塔頭（たちちゅう）黄梅院の玉仲禅師の筆によるものである。

\*寿像とは生きていうちに書いた像

\*黄梅院は隆景が帰依して再興され隆景の法名にちなみ黄梅院と名付けられたともいわれるゆかりの寺である。

◆ 行道面八面、附小道具八点  
広島県重要文化財

毎年2月15日に往生講式の練り供養に使用されたもの（死者を極楽に迎える菩薩来迎会の行道）八面の中で可愛い表情の童面が人気とのことだが、他の菩薩のお面も穏やかな表情をされており見入ってしまう。

## ◆ 阿弥陀如来立像二体

平安時代から鎌倉時代の作といわれ、当時、阿弥陀堂に本尊として安置されていたもので、一体は中が空洞で人間が入ることができ、練り供養に使われていたそうである。

## ◆ 仁王像

仏法守護の金剛神で寺門の両側に置かれている。力強い肉感があふれているが破損箇所が多いのが残念である。宝永6年（1709）5月吉祥の日付、運慶の墨書も見える。当寺より北に300mの地に仁王門は建てられ仁王像は置かれていたが、昭和50年（1975）に強風雨により倒壊したとのこと。

## ◆ 閻魔王像

死者の生前の罪を裁く王といわれ死後の世界の支配者で、収蔵庫の中に置かれていても中央で睨みをきかせて座している。当寺の閻魔堂に安置されていたもので、破損も少なく見ごたえのある像であった。

## 『小早川氏の歴代墓所』

米山寺の参道を挟んだ向かいの山すそに、小早川氏の墓地がある。初代土肥実平から隆景までの宝篋印塔20基が2列に並んでいる。後列左端の塔は大きく高さ2.5mの宝篋印塔は昭和31年（1956）国の重要文化財に指定されている。



塔身に「大工念心 元応元年己未（つちのとひつじ）十一月 一結衆白」の刻銘がある石工念心は、当時各地の宝篋印塔を製作しており奈

良西大寺系の石工として有名であった。墓所中唯一の在銘遺品である。

注目するところは、後からも供養品や遺骨を納入するための「奉籠孔」(ほうろうこう)があることで背面の中央の石の継ぎ目に見える。

平成30年(2018)7月の豪雨で被害に見舞われるが、3年後に各方面からの寄進により復旧される。小早川家墓所は本来は異なっていた姿と考えられるが毛利氏により現在のように整然とした墓所に整備されたものと思われる。

前列右端の隆景の墓は昭和18年(1943)に県の史跡に指定されている。高さ1.75mの宝篋印塔である。なお、宝篋印塔の前に置かれている石柱に代々の名の下に「平」の文字が彫られているのは、小早川氏は桓武平氏の流れをくむ一族といわれているからである。

全国的にこれほど並んだ宝篋印塔は他に例がないといわれ圧倒される光景である。

墓所は鉄柵で周りを囲まれており、常時は施錠されている。

#### ・菅茶山文學碑

文學碑は墓所内の入口に建てられている。

茶山が米山寺を訪ねて、小早川隆景寿像を拝観したときの気持ちを述べたもので、昭和56年(1981)に建立された。



#### 米山寺拝謁小早川中納言肖像

菅晋帥(しんすい) 茶山は号

#### 一戦全奇功列屯

一戦の(文禄の役) 策略は一団となって任務を全うした

#### 想君単隊立傳殮

おもう君(小早川隆景)はひとり隊をとどまり小飯の時を伝える

#### 画中冠帯英風在

画中の冠と帯は立派な徳がみなぎり

#### 馬上光陰華髮繁

戦場での歳月によって頭には白髪が増えている

#### 先親無愆授霸主

隆景公を霸主としたことに過ちはなかつたろう

#### 予防有計保宗藩

その予防策によって生家の毛利藩の安泰を保ったのだ

#### 当時諸将争驍勇

当時の多くの武将は勇猛であることを競っていたが

#### 興学誰文徳知尊

学校を興し学問による徳の尊さに誰か気が付かなかったものか残念なことである

\*隆景は慶長元年(1696) 聖廟を設置し学舎を創設、足利学校出身の白鷗を招き学問を広める

・聖廟(せいびょう)とは孔子を祀った施設

\*菅茶山(寛延元年(1748)~文政10年(1827))は備後神辺の生まれ、簾塾を開いて多くの子弟を教育している。



\*小早川隆景は毛利元就の三男として吉田郡山城で生まれ、12歳で竹原小早川家の養子となる。同母の兄に毛利隆元と吉川元春がいる。元春と共に毛利両川として毛利氏発展のため尽くす。豊臣政権下では五大老の一人に任じられ、実子がなく豊臣秀吉の甥(秀秋)を養子に迎えている。秀秋に家督を譲ってから後、三原城で没し、米山寺に埋葬されている。小早川家は秀秋が亡くなると家は断絶したが、明治になり毛利家28代元徳によって小早川家は再興されて現在に至っている。

最後の研修地の米山寺では常時は外から見えないだけの墓所に入れていただき、初代実平から17代隆景まで約400年間に渡る宝篋印塔に戦国の世を思い小早川家が本郷の地で栄華を誇っていたことがわかる場所でもあった。

住職さんの説明も弾み長時間にわたり拝観させていただく。帰着時間も気にかかり、バスにもどり帰路につく。途中、本郷生涯学習センター

前で神本氏が下車、復路は西条まで2号線を通るので、渋滞がないことを祈る。

田万里付近で少し時間をとったが、予定時間には中央公園バス停に着き、鏡山公園第二駐車場に無事帰着することができ安堵する。

本郷の地は古代より沼田川から文化が運ばれて栄え、源平時代になると沼田氏、その後、この地に地頭職で小早川氏が入り勢力を拡大していき繁栄をしていったところである。小早川氏の財力をもって華ひらいた仏教文化は、現在もこの地を訪れると和ませてくれます。静かな森の中に安置されている仏様に、街道筋に安置され人々を見守っているお地藏様に今度はもっと時間をとってお会いしたいものと思います。

この度の臨地研修で訪れた大本山佛通寺、本郷宿の西念寺、米山寺の方々には、色々とお心配りをいただき心より感謝申し上げます。

郷土史石造物研究会の船越氏をはじめ部員の方にご協力をいただき感謝いたします。また、神本氏には本郷宿で詳しい説明をしていただき有難うございました。神本氏の地元である本郷への深い愛情を感じさせていただきました。

そして、参加された皆様の御協力により意義のある研修となり、無事終わることができ心よりお礼申し上げ報告といたします。

## 温故知新～郷土の歴史を未来に伝えます 福富中学校歴史グループとの出会い

吉田 泰義

10月2日、福富中学校歴史グループ女子5人に、過去を歩こう「時を超える冒険へ」周姫(かねひめ)記を楽しく案内してもらいました。



NHKテレビ地域ニュースで放映されました



もっと福富町に関心を持ってもらえたらうれしい



福富町下竹仁天神の「阿良井(あらい)城跡」

標高350m、比高20m、主郭の山頂は約30m×20m、井戸は石組みみされ深く落ちると上がりそうにありません。戦国時代の毛利氏の家臣で児玉氏の山城(砦)でしたが今も完存しており、西から東に流れている沼田川(昔は竹仁川)が蛇行しながら堀の役割を果たして、北の山裾には児玉氏の屋敷跡も残っています。

## 財満氏と毛利秀就の誕生秘話

平成25年(2013)10月に研究発表された西条の渡部和代氏より二の丸様を教えられ、現地に出向き歴史探訪開始。山口県の平山智昭氏より毛利秀就公出生の謎解き4冊、内田喜美子氏作成の「周姫&二の丸様の物語」紙芝居を頂き交流しています。



平成26年(2014)宇部市小野の財満苑に二の丸様頭影碑



平成28年(2016)周南市徳山の興元寺に周姫様面影【絆】像

令和5年(2023)には内田喜美子氏が東広島へ来られて案内。その次に山口の美祢市綾木を

3人で訪問。児玉氏屋敷跡、二の丸様所縁の明林寺、大仏ミュージアム、法香院、明治維新発祥の地、秋芳洞など最高に楽しみました。

### 東広島での紙芝居紹介

令和3年(2021)下竹仁地域で3回  
令和5年(2023)郷土史研究会例会  
令和6年(2024)福富中学校で紹介  
この紙芝居は24枚。要点4枚を紹介します。

### ■安芸国豊田郡竹仁荘天神の里

天正元年(1573)誕生した周姫  
天正10年(1582)10歳に成長



吉田郡山城から毛利輝元殿30歳が近隣視察の途中、阿良井城の児玉屋敷に立ち寄り庭先で休息中に毬が転がってきました。

可愛い10歳の周姫が出てきて、毬を渡すと「ありがとう」とお礼を言いました。

### ■天正12年(1584)周姫は12歳

輝元殿は正室との間に世継がなく、従兄の秀元が毛利家の世継に決定していました。

輝元殿は可愛い周姫を側室に欲しいと伝えましたが、徳山の杉元宣様の正室として翌年に周防国(徳山)に嫁いで行きました。

### ■天正15年(1587)拉致された周姫15歳



輝元殿は周姫が忘れられず、それを密かに察した家臣は乳母と共謀して徳山に出向き「九州

の戦が長引いているので連れてきてくれと杉様より頼まれました」と嘘をつき船に乗せられ広島へ連れて行かれ、二の丸様と名も変わり広島城外に住まわされました。

### ■天正19年(1591)二の丸様19歳

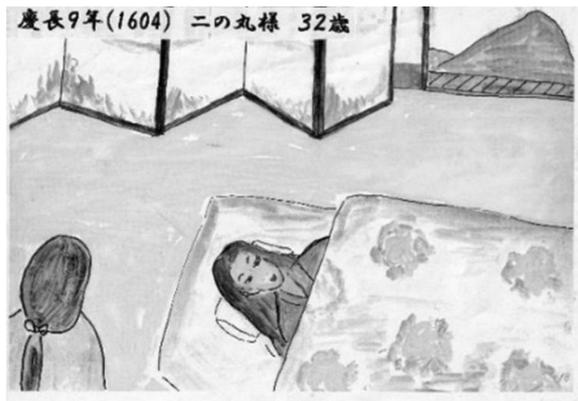


毛利家の世継は秀元と決まっていたため、毛利家紛争を恐れた輝元殿は妊娠した二の丸様を家臣の財満氏屋敷に隠して天正19年(1591)1月20日に小野で男子を出産。

世継と認められたのは元禄4年(1595)広島城に初登城した日とされ、毛利家と財満家との間で、秘密事項とされていました。

長男の秀就(初代萩藩主)、長女の竹姫(吉川家正室)、二男の就隆(初代徳山藩主)に恵まれましたが、子供とは引き離されました。

### ■関ヶ原合戦後・毛利氏は広島～山口へ 慶長9年(1604)32歳の若さで永眠



### 二の丸様の姫山伝説

女は誰も顔や姿など容姿の美しさを誇りとするものですが、一生を地味に暮らすことこそ誠の幸福です。私は少し美しかったので夫は殺され、一家一族を思い仕方なく側室になりました。南の大方からは嫉妬されて、子どもは手許に置けず、実に情けない人生でした。殿を南の大方様にお返しして、元宣さまにお詫びがしたいと言ひ残され生涯を終えられました。…合掌

## 【八本松探訪21】

## 八本松の神社 (3/3)

天野浩一郎

## ■ 6. 梅木（うめき）八幡神社

旧正力村の村社で、正力地域の鎮守氏神として親しまれています。祭神は宇佐八幡宮と同体です。

鎌倉時代に勧請、また享禄3年（1530）に梅木平の山頂に創建したと伝えられ、定かなことは分かっていません。

以前は石の祠で祭礼の時には仮の屋根をしていましたが、正保4年（1647）3月に現在地に移し、神殿を建てたようです。

この時、社殿の下に今までの石祠や仮殿を埋めたので“埋め木”と言い、それが“梅木”に転化したと伝えられています。また、大きな梅の木があり、この幹に夜々光るものがあるのでこれを神として祀り、“梅木神社”と名付けたとも言われています。

参道の石段の近くにある山中は“梅木古墓”と呼ばれ、五輪塔などの残欠が数多く存在しています。



梅木古墓

## ■ 7. 九郎神社

旧米満村の村社で、米満地区の鎮守神です。“九郎”というのは祭神が源九郎判官義経とし、また別に坂瀬川九郎という人がいて坂瀬川の水利を利用し田を開いたので、坂瀬川九郎を神として祀ったという二つの説があります。後者は、米満に新田池があった時、大蛇が池の土手を壊し水が排出し、跡地が肥沃な農地になったという「大蛇伝説」と関係がありそうです。

また、創建も元慶2年（878）と建武2年（1335）の二つが伝えられています。

以前は“上の谷”にありましたが、道も狭く便利が悪いので大正元年（1912）に現在地に移転しました。移転・建築費用は氏子達の戸別割負担とし、工事も氏子の労力奉仕により行われました。神殿は東志和村の森神社の神殿を購入し利用したそうです。

上の谷の神社跡には、米満を開田する時に掘

り出したと伝わる自然石を加工した手水鉢が残っていましたが、現在は土砂崩れで埋まっています。

## ■ 8. 大歳（おおとし）神社／川上神社

大歳神社（大歳大明神）は南北朝～室町時代の頃勧請したと伝えられ、祭神は大歳神で、飯田字古寺にあった旧飯田村の村社でした。

大正2年（1913）、旧飯田村の村社であった天満宮と伊勢神社を当神社に合祀し、祭神は大歳神・菅原大神・豊受大神の三座になりました。

大正11年（1922）、広島県知事の許可を得て大歳神社を川上神社に名前を変更し、川上村の総鎮守神になりました。

以前は毎年10月20日の祭礼には上組・中組・下組の地区からの吹きはやしや神楽、五行祭、競馬などが奉納されていました。

境内には盃状穴のある手水鉢があり、上面に約17個の穴が並んでいました。以前の“石造物研究会”の調査によると、市内には盃状穴のある石造物は13件ほど存在していました。

石造物に穴を穿つ目的は不明ですが、何かの願いを込めての行動かも知れません。



盃状穴（◎印）が彫られた手水鉢

## ■ 9. 天満宮（てんまんぐう）と伊勢（いせ）神社

天満宮は祭神が菅原道真公で、今の川上小学校の敷地に鎮座していました。川上村にあった二つの小学校を統廃合するため、天満宮を大歳神社に合祀し跡地に川上小学校を建設しました。現在はプレハブ校舎が建っていますが、グラウンド中央北寄りに社殿があり、木の鳥居が校門を下り県道を横切った先にあったそうです。

伊勢神宮は飯田字石堂にあり、祭神は豊受大神でした。正徳2年の「神社改」には当社の名はなく、いわれも不明です。

## ■ 10. 清水川（しみずがわ）神社

旧原飯田村の村社で中曾山神社と言っていま

したが、昭和17年（1942）に清水川神社と改めました。

祭神は伊邪那岐神（いざなぎのみこと）で、明治28年（1895）の神社調によると文明19年（1487）以前に勧請したと記されています。

昔は妙現社と呼ばれ、近くにある法華宗妙福寺の祈願所でその境内にありましたが、いつの時代か現在地に移転したようです。

伝説によると、この神社は北側のすぐ下を通る西国街道に面していましたが、如何に高貴な人でも乗馬のままで街道を通行しようとするとうつろましました。これではいけないと神社の向きを北側から西側に変えると、それから落馬はなくなりました。

ご神体は金の観音像でしたが、中曾山神社に改めた時仏を廃して鏡にしたと伝えられています。

#### ■11. 鷹巢八幡（たかすはちまん）神社

旧宗吉村の村社で、八幡三神と宗像三女神を祀っています。

建武年間（1334～5）に京都・石清水八幡宮より鷹巢山頂上の宮の段に勧請し、永禄年間（1558～69）に“末竹”に鎮座したと伝えられています。

昭和15年（1940）宗吉地区に海軍の弾薬庫を建設することになり、当神社も立退きの対象となって2年後に現在地の丸子山に移転しました。川上弾薬庫内には現在も当時の神社の施設が残っています。

神殿、拝殿を造営した寛文10年（1670）、宝暦13年（1763）の棟札が残されていました。

（参考文献：「川上村史」他）

\*「八本松探訪」は、今回をもちまして終了いたします。長い間、有難うございました。

### 第47回県史協南部地区呉市倉橋大会 近藤 英治

第47回広島県郷土史研究協議会（県史協）南部地区呉市倉橋大会が、10月26日（日）、広島県郷土史研究会を主催者として開かれた。県内各地から14団体173名、うち当会から17名が参加した。

当日は07：30マイクロバスで出発、東広島呉道路を南下して第二音戸大橋を渡ると音戸と倉橋は地続きだった。早瀬の瀬戸を右に見てその先は山越え、トンネルを抜けて坂道を下ったところに会場の天然温泉くらはし桂浜温泉館があった。県内最南端（北緯34度04分）だけあって、予想したより遠かった。（余談だが緯度は伊豆の三宅島と同じで、日本列島が弓状であるのが

分かる）

受付を済ませ10：00から開会式となった。主催者の挨拶があり、続いて2本の講演会と進んだ。

講演1「県最南端の島の歴史を辿る一倉橋の旧石器時代から現代まで」講師：呉市倉橋まちづくりセンター館長 道岡尚生氏。

島の南方海底からナウマン象の化石や多数の土器が引き揚げられている（瀬戸内海はかつて陸地だった）。古墳時代を経て奈良時代には海上交通の要衝であった。遣新羅使がこの島で歌を詠んでいる。中世には警固役所が設けられ、近世には内海有数の造船地となった。朝鮮通信使が避泊したこともある。明治期には呉軍港の一部となり関連施設が築かれた。くらはしという名は古くから見られ、和銅開珎の出土もありこの島には特有の文化と歴史が残されている。

講演の前後に、倉橋音頭、音戸の舟唄を鑑賞した。

講演2「亀ヶ首発射試験場の全貌と、戦艦『大和』全史1907～2025年」講師：広島県郷土史研究会顧問 相原謙次氏。

氏は大和研究の基本である各種第一次資料をはじめ、個人の聴取り・日記から海軍関係の資料に至るまで探し巡り調査した。併せて国会図書館、防衛省等の公的機関、米国の資料の調査・収集を行っている。今回の県史協機関紙第43号には氏の著作「戦艦『大和』全史1907～2025年」の全文が掲載されている。

その趣旨を講演資料の序文から要約すると、「県史協倉橋大会を記念し、大和建造のきっかけとなる明治40年（1907）の「帝国国防方針」の制定から現在にいたる119年間を、誰も作成したことがない大和の詳細な経歴・出来事の全容を年表方式でまとめ、今までの常識を覆す真相を明らかにして併記し、表題のとおり名付けて発表する。」というものだ。

同序文には著書の特徴として10項目が掲げられている。起工・進水式の詳細から、天一号作戦（沖縄海上特攻）の伊藤整一司令官の真意（初めて判明）、最大の存在意義は和平への道に導いたこと、ポツダム宣言受諾の秘話、さらに沈没地点での潜水調査の詳細などの項目である。

写真も多用され米軍撮影のものもある。戦艦大和に関する図書や研究書は膨大な数があるが、それらには概略の年表しか載せられていない。全容を網羅した年譜は初めてである。（一読をお勧めしたい）

亀ヶ首発射試験場は明治33年（1900）の設置である。日本海海戦（同38年（1905））の勝因

である下瀬火薬の試験が始まりだった。戦艦大和の世界最大46センチ主砲の試射から地下陣地の防御力まで多種にわたる研究が行われたのである。試作、試験、改良が世界水準に結実するのは今も同じである。

講演は熱気溢れるものだった。

臨地研修で私とSさんはこの見学ツアーに参加した。くらはし海の駅を出港して高速艇で東へ40分、試験場の北西側に2本ある朽ちた突堤から上陸した。



当時は軌道とクレーンがあったという。南東側は海が開けており射線はこちらに向けられた。トンネル内の計測室やコンクリートの建物跡を巡った。



烹炊所（調理室）では人が主役であることを、慰霊碑では試験の凄まじさを想像した。

さて、今回のような数々の学びと郷土愛を醸成して47回を数えた県史協大会だが、このような形で行うのは一旦休止となるようだ。次を引受ける団体がないという。存続を巡る話し合いの中で、講話だけなら或いは臨地研修だけならという所があり、来年度は臨地研修を大崎上島で催すと案内があった。フェリーに乗るのが楽しみである。

#### 【郷土史研究会ニュース原稿募集のお知らせ】

郷土史研究会ニュースの原稿を募集しています。会員ならどなたでも紙面で発表できます。パソコンが苦手な方は手書きでOKです。ぜひ、ご寄稿ください。

#### 【新規会員募集中】

活動が気になる方は、下記QRコードから覗いてみてください。



Instagram



HP



Facebook

#### グループ研究会ご案内

##### 第302回 古文書研究会

と き 12月9日(火) 13:30～  
ところ 市役所北館 市民協働センター  
テキスト 国郡志御用<sup>レ</sup>付下弾帳賀茂郡冠村<sup>⑤</sup>

##### 石造物研究会

今月の活動はおやすみです

##### 第199回 四日市町並研究会

と き 12月10日(水) 13:30～  
ところ 西条本町歴史広場 小島屋土蔵  
内 容 昭和の西条町商店街の歴史

##### 昔の道探訪会（旧山城探訪会）

今月の活動はおやすみです

##### 原爆資料保存研究会

今月の活動はおやすみです

##### 12月の図書室開放

と き 12月19日(金) 13:00～15:00  
ところ 高屋教育集会所

#### ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第616号

令和7年（2025）12月5日発行  
編集・発行 東広島郷土史研究会

会 長 赤木達男

事務局長 國松宏史

会報編集 進藤真由美